

(三) 濟廣寺さいこうじ

カヤ 県文化財 昭和四十年指定
駕籠かご 町文化財 昭和五十四年指定

稲取の大畑おおばたけにある濟廣寺は、安土桃山時代あづちもはやまだいの天正てんしょう(一五七三年―一五九一年)年間に今の場所に建てられたといわれています。もとは入谷いりやの山田やまだにあり溪松庵けいしょうあんと呼ばれていました。が、お寺が遷うつるときにお寺の呼び方も今の濟廣寺に変わったと伝わっています。

このお寺の境内けいだいの右手には大きなカヤの木があります。この木は、根の周りが約六メートルあり、木の高さは約十八メートルある大変大きなものであり、樹齡じゅれいは約七〇〇年以上ともいわれています。カヤでこれだけ大きなものは、静岡県でもめずらしいため、県の天然記念物に指定されています。

このお寺の十五代目の住職じゅうしよくである的州禪師てきしゅうぜんじ

は、お寺の本山ほんざんで鎌倉かまくらにある建長寺けんちやうじで十年間以上にわたる厳しい修行しゆぎやうに励みしました。

これが認められ、文久三年ぶんきゆう(一八六三年)に西堂さいどうという大変高いお坊さんの位をもらいました。このお坊さんが稲取に帰ってきたときに乗ってきた駕籠がお寺に二台あります。

ひとつは町を通るときに乘る化粧駕籠けしやう(町駕籠)で桐きりの木を使ってきれいに作られています。もうひとつは山越えなどに使う山駕籠やまで化粧駕籠に比べて軽く、山道などを越えるのに便利にできています。

的州禪師てきしゅうぜんじがこれらの駕籠に乗り、お寺に戻ったときに持ってきたものに御判物箱ごはんものばこがあります。御判物箱とは、將軍などから受け取った大切な文書を入れる箱であり、この箱の両側には將軍家の印である葵あおいの紋があります。また、このお寺の檀家だんかの人がビルマ(今のミャンマー)の独立に協力したこと、ビルマの国の宝である釈迦しやかに如来像にやらいざうやビルマの豎琴たてこなどがお寺の宝物館にあります。

済廣寺のカヤ

○場所	稲取
○樹齡	約七〇〇年以上
○高さ	十八メートル
○枝の広さ	東西南北に約十七メートル
○根まわり	六メートル
○目通り	五メートル

静岡県でもめったにない大きな木と言われている、県指定天然記念物になっています。

